

# Genius

English Communication

## Genius English Communication I Revised のタスクを使ったスピーキングの評価

小泉利恵



スピーキングの評価では、タスクを生徒に提示し、タスクから引き出された発話を評価者が判定します。どんなタスクを出すか、誰が評価するかだけでなく、判定の際にどのような評価基準（採点基準、ルーブリック）を使うかも考えます。評価基準には、評価観点（評価規準）と判定基準があり、各観点においてどのように話せたら何点かを書き出す必要があります。明確な評価基準は、採点時に同じ基準で評価しやすくなり、ぶれが少なくなります。また、評価基準と評価例をテスト前後に生徒に提示すると、学習に結びつけやすくなります。

教科書に基づいた評価をどのように行うべきかを迷っている方を念頭に、本稿では、*Genius English Communication I Revised* の課末のタスク（Discussion と Project）を使ったスピーキングの評価についてまとめます。

### ■ Discussion と Project の評価基準

Discussion は、課の内容と強く結びついた問に答えるもの、Project は課のトピックを発展させる形で調べ学習を行い、それを発表するものとなっています。同教科書の *Teacher's Manual* には、各課の Discussion と Project それぞれに評価基準が載っています。同じ種類のタスクであっても、指導目標や評価の方法（生徒同士で会話する形か、クラス全体の前で発表するかなど）、評価の状況（授業中に聞いてすぐに評価するのか、録音して後で採点するか等）によって多様な評価基準がありえるため、表 1 のような選択肢を組み合わせ

て作った多様なタイプを入れてあります。紙面の関係でここでは解説を省略しますが、用語の詳細は小泉（2016）をご参照ください。

表 1. 評価基準のタイプ

|                                                            |
|------------------------------------------------------------|
| 評価形式：総合的か分析的か (holistic vs. analytic)                      |
| 記述形式（測る能力の種類）：タスク特有なものか一般的なもののか                            |
| 評価観点（評価基準）：タスク達成度のみか、流暢さ（原稿参照の有無）、正確さ、やり取りの自然さ、質問への応答を加えるか |
| 判定基準：3 段階か 4 段階か                                           |

### ■ 分析的・タスク特有型・タスク達成度と流暢さの 3 段階の評価基準：Lesson 5 Project の例

#### (1) 評価タスク

Alex's Lemonade Stand Foundation の募金活動以外のプロジェクトについて、①いつ始められ、②誰が、どのように、どこで募金を行い、③どのくらいの金額が集まり、④何の目的でお金が使われるかを含めて、詳細に調べ、発表しなさい。

#### (2) 評価基準

|            | タスク達成度                             | 流暢さ                                                           |
|------------|------------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| A（十分満足できる） | (7) 下線部 4 点を述べている。かつ (1) 内容が詳細である。 | 10秒以上の長い沈黙がない。言い直しがあっても気にならない程度である。スムーズに話している。かつ原稿をほとんど見ていない。 |

|               |                |                                                           |
|---------------|----------------|-----------------------------------------------------------|
| B (おおむね満足できる) | (ア) のみを満たしている。 | 長い沈黙が1回ある。言い直しが多めで少し気になる程度である。話すスピードが遅めである。または原稿をたまに見ている。 |
| C (努力を要する)    | (ア) を満たしていない。  | 長い沈黙が2回以上ある。言い直が多い。話すスピードが遅く、理解に影響がある。または、原稿をほとんど見ている。    |

Teacher's Manual では、タスク達成度と流暢さがAの場合、Bの場合などの発話例を挙げています。評価基準の表現は一例であり、高校での指導実態に合わせて変えることができます。

## ■評価観点についての解説

(2)の評価基準を使って授業内評価の実践を行った結果も含めて、以下述べます。

「タスク達成度」では、聞き手に伝わるように話せているかがポイントとなります。タスクが求めている (ア) (イ) の要素を話に入れているかだけでなく、声が十分大きいのか、理解しやすい発音で話しているのかも見ます。原稿があると、早口になり過ぎたり、モゴモゴと話して何を言っているのかが分からなかったりする発表が多く見られます。その場合は、原稿としてはAでも、発話としてはBかCになります。判定が難しいのは、(ア)の要素に1, 2個抜けがあるが、(イ)の詳細は満たしている場合です。実践時には、(ア)で抜けた要素を詳細さで十分補えている時にはAとしました。

「流暢さ」については、原稿から目を離して話せない時にはCになります。原稿からある程度目を離しても、英語表現を十分頭に入れていない時には流暢さが低くなり、BかCとなります。普通、流暢さには原稿参照の有無は入れませんが、授業タスクの評価では原稿を作ることが多く、そ

の使用が話し方に大きく影響すると考えて入れました。

「正確さ」は、指導目標にあって指導もしているならば入れてもよく、また特定の文法・語彙項目だけに集中して見るだけならば実行可能な場合もあるでしょう。しかし、正確さ全般を1観点としての評価は難しいです。実際、1分程度の発話を一度聞いて、3観点を別々に評価することを、実践の前に評価練習として行ってみました。最初に評価基準を話し合ってから調整しても、採点者間で評価はあまり一致しませんでした。「正確さ」は設けず、理解を妨げる重大な誤りが(複数)あった時に、「タスク達成度」の中で減点する形の方が現実的だと思います。

## ■外部試験のスピーキングテストとの関係

外部テストでは、準備時間が短いなど、タスクが異なるだけでなく、評価基準が今回紹介したようなものよりも詳細なことが多いです。そのような基準を学校での評価でも使うべきかと悩むかもしれません。しかし、外部テストでは、採点の客観性を高めるために評価者トレーニングを丁寧に行っていることが多く(例: Koizumi, Okabe, & Kashimada, 2017), それを前提としない学校の評価では詳細なものは求めすぎない方がよいと考えます。学校での指導に即した形で評価を行い、学習と指導の改善というサイクルを続けていけば、入試でも通用するスピーキング力につながっていくと思います。

## 【引用文献】

- 小泉利恵 (2016). 「ループリックを使ったスピーキングの評価」. 『英語教育』, 65(10), 34-35.
- Koizumi, R., Okabe, Y., & Kashimada, Y. (2017). A multifaceted Rasch analysis of rater reliability of the Speaking Section of the GTEC CBT. *ARELE*, 28, 241-256.

(こいずみ りえ・順天堂大学准教授)